

平均9.71、♂23.49～60.87、平均37.60、3月には♀18.94～55.43平均40.87、  
 ♂2.50～9.88平均6.20となっている。この変化からみると♀は、10月～1月にかけて  
 次第に大きくなり、3月には急激に大きくなる。♂は1月には熟度指数がかなり大きくなっ  
 ているが、3月の熟度指数が小さくなっており、これは産卵期に幅があること、個体間に熟度  
 のずれがあることを示すものと考えられる。

このような熟度指数の変化から検討すると、ハマフエフキの生殖線は、産卵期に近くなって  
 急激に大きくなるようである。その時期は、♀では2月下旬～3月上旬であろうと推定される  
 が♂についてははっきりしない。また産卵期は3～4月に初まり、多少幅があるものと推定さ  
 れるが、その期間については今後の調査で明らかにしたい。

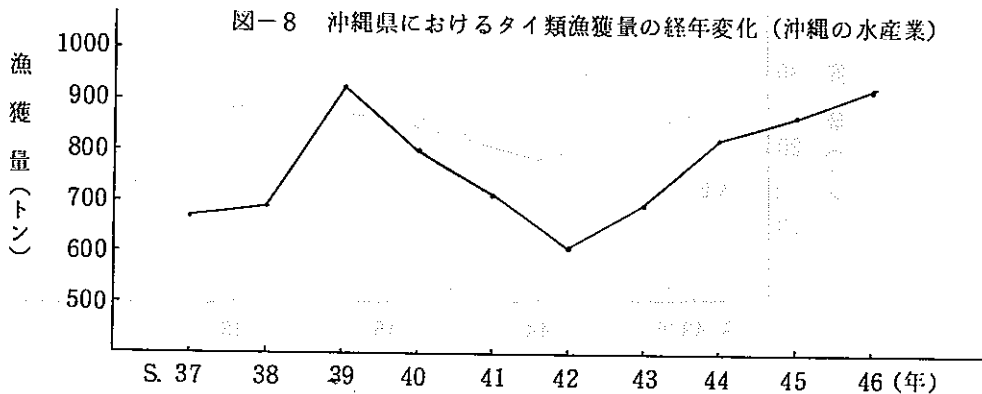
表-7 ハマフエフキの生殖腺調査結果

調査年月日	調査個体数	尾又長(cm)	体重(g)	性別	生殖腺重量(g)	生殖度指数	腺数	平均値
47年 10月25日	6	49.0	2,100	♂	2.60	1.74		1.74
		53.5	2,750	♀	0.70～6.60	0.56～5.52		3.75
47年 12月14日	7	48.2	2,000	♂	3.33	2.63		2.63
		55.2	3,155	♀	6.25～16.70	5.58～12.96		9.38
48年 1月31日	13	48.0	1,890	♂	34.0～78.40	23.49～60.87		37.60
		54.5	2,880	♀	1.15～30.25	1.00～20.26		9.71
48年 3月9日	13	38.0	1,010	♂	4.40～18.80	2.50～9.88		6.20
		60.0	3,800	♀	28.2～107.95	18.94～55.43		40.87

## 8 漁業生産

### (1) 沖縄県におけるタイ類漁獲量の経年変化

沖縄県におけるタイ類漁獲量の変化を昭和37年～昭和46年の10年間についてその変化をみると、図-8に示すように、600トン～900トンの間を変化している。昭和37年～昭和39年までは漁獲量は増加したが、39年を境に42年までは年々減少傾向を示した。42年～46年までは再び増加傾向を示し、46年には39年とほぼ同じ908トンまで増加している。



(2) 沖縄県におけるタイ類漁獲量の経月変化

タイ類漁獲量の経月変化を昭和40年～昭和45年について検討してみた。2月には漁獲は減少するが3～5月にかけて次第に増加し、5月には6.0～9.0トンで最高を示す。5月以降12月まではかなり変動するが、全体として漁獲は減少傾向を示す。8月～9月には特に漁獲は減少するが、それは、台風が発生接近する時期であり出漁日数との関係がかなり明確である。11月～12月には漁獲は多少増加する。

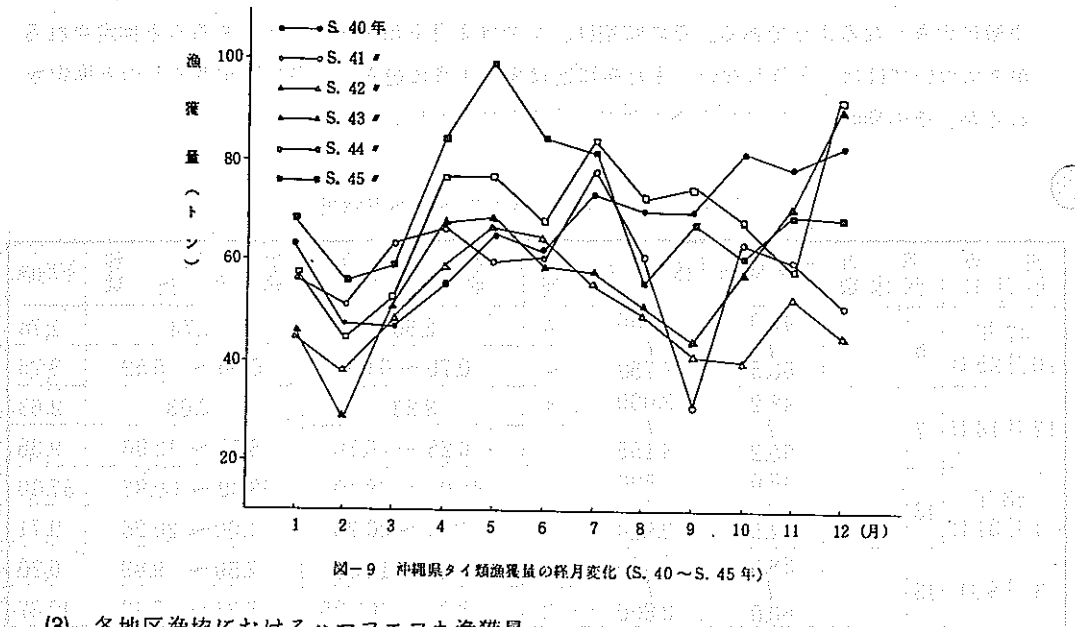
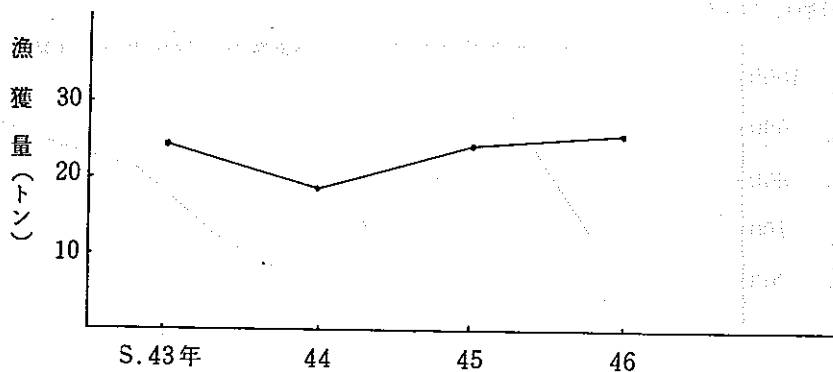


図-9 沖縄県タイ類漁獲量の経月変化 (S. 40～S. 45年)

(3) 各地区漁協におけるハマフエフキ漁獲量

i 那覇地区漁協における漁獲量

昭和43年～昭和46年までの漁獲量を市場セリ帳より調査し、その結果を図-10に示した。それによると、年漁獲量は18.7トン～25.8トンで、その変化は小さく、漁獲量は横ばい状態を示している。月別変動では、1～4月に漁獲は次第に上昇し4月には最高を示す。5～12月までは変動しながら横ばい状態を示す。



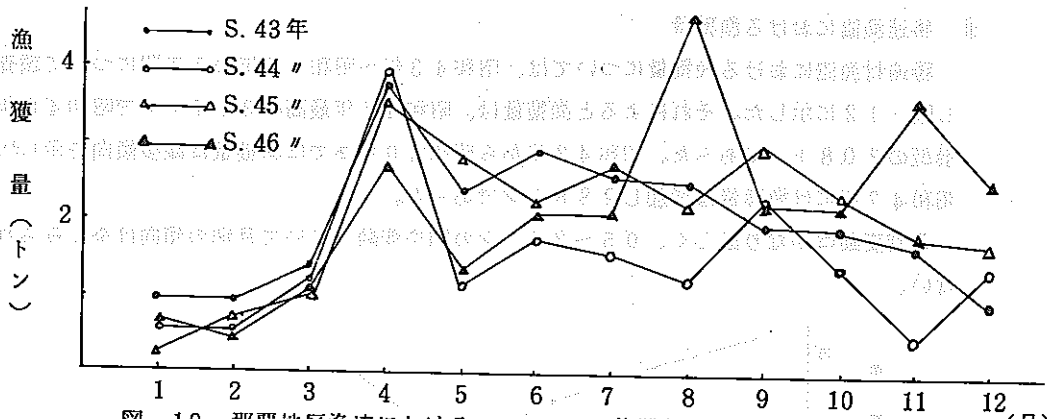


図-10 那覇地区漁協におけるハマフエキ漁獲量の経年および経月変化 (月)

ii 糸満漁協における漁獲量

糸満漁協における漁獲量については、昭和44年～昭和46年の3年間について調査し図-11に示した。それによると、24.5トン～40トンの範囲にあって、昭和45年には最高を示した。

月別には、3～5月にかけて漁獲量は急激に増加し、5月には最高を示し、6～8トンに増加する。6～7月には多少漁獲は減少する。8月以降は漁獲はかなり減少し2トン前後となる。

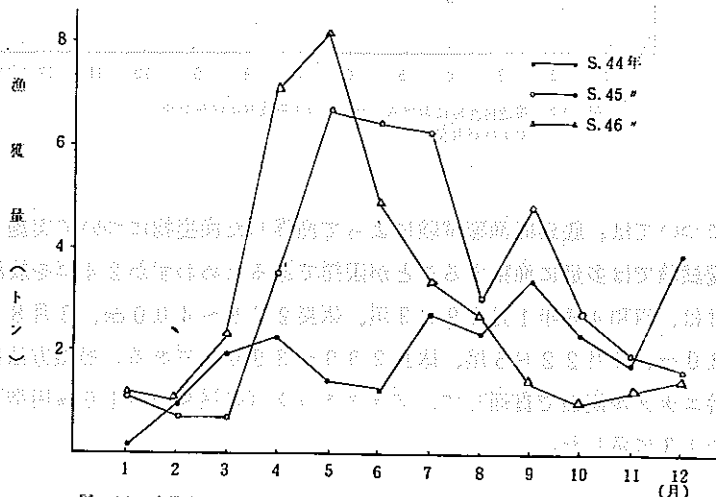
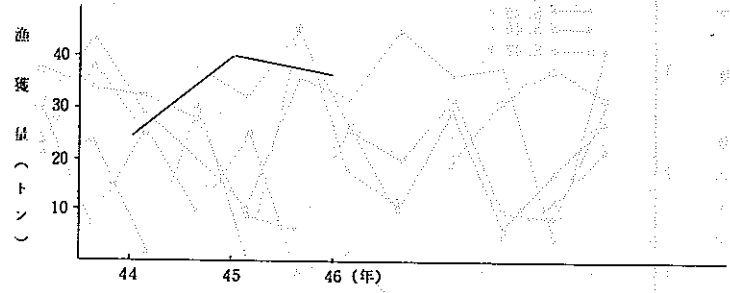


図-11 糸満市漁協におけるハマフエキ漁獲量の経年変化および経月変化